参考資料５

川崎市総合計画市民検討会議 第１回全体会
開催概要

■ 川崎市総合計画市民検討会議について

・ これからの川崎の目指すべき方向やそのための取組内容を明らかにする新たな総合計画を策定するにあたり、市民目線での意見や助言をいただくことを目的として設置。

・ 委員は、次の 22 名で構成。（別添の委員名簿を参照。）

　　無作為抽出した市民による「川崎の未来を考える市民検討会」参加者 14 名

　　公募市民 7 名

　　コーディネーター1 名（中央大学法学部 礒崎初仁教授）

・ それぞれ関心のある領域ごとに部会を構成し、全体会で意識の共有化や意見の集約を図る。また、市民検討会議の検討結果については、有識者会議等において市民の視点からの意見として活用する。

・ スケジュール概要（予定）

平成 26 年 10 月 4 日	第 1 回全体会
11 月 1 日	第 1 回部会（社会福祉（介護、健康））
12 月	第 2 回部会（子育て、教育）
平成 27 年 1 月中旬	第 2 回全体会
2 月中旬	第 3 回部会（暮らし、交通）
3 月上旬	第 3 回全体会
5 月	第 4 回全体会

■ 第 1 回全体会

＜日時＞　平成 26 年 10 月 4 日（土）9 時 30 分～12 時 15 分

＜会場＞　川崎市役所 第 4 庁舎 第 6・7 会議室

＜概要＞

○ コーディネーター挨拶

・ 人口減少や財政規模の低下などの時代だからこそ、残された財源や人材をどううまく使うか、知恵を絞って総合計画を作り、役所と市民が共有することが必要。

・ まちづくりは市民が主役なので、市民参加で検討することはたいへん重要な意味合いを持つ。

コーディネーター
礒崎初仁中央大学教授

○ 市からの説明

・ 市より「新たな総合計画策定方針」「市民検討会における意見」「市の財政状況」の 3 点について、それぞれ説明を行い、新たな総合計画の策定に関する取組内容や市の状況について、委員間で認識を共有した。

○ 福田市長挨拶

・ 各区の検討会に出てみると、子育て世代、シニア世代など、世代を超えてつながろう

という意識が高いことが共通して感じられた。

- 今後財政も厳しくなる中で、多世代で結び付きあって、地域の工夫で住みよいまちをつくっていくことが重要となる。
- 本日は、市民からその第 1 歩を踏み出そうという取組であり、ぜひ活発な意見交換をお願いしたい。

福田市長

○ グループディスカッション

- 3 つのグループに分かれて、「将来を見据えて乗り越えなければならない課題」「積極的に活用すべき川崎のポテンシャル」「新たな飛躍に向けたチャンス」をテーマに、グループディスカッションを行った。
- これまでに 7 区で開催された市民検討会での意見も付箋に書いて貼り出しておき、それらを踏まえて各委員が意見を追加して、意見交換を行った。そのうえで、各委員上位 3 位の意見にポイントシールを貼り、各委員の問題意識がどこに集まっているのか明示しつつ検討を進めていった。
- 「課題」については、「PR が不足している」「情報が届いていない」といった情報発信に関する意見が多く出された。その解決には、川崎のイメージ・アイデンティティを確立することが必要であり、川崎の人材や活動を活用することが大事との意見も多く出された。
- また、「少子高齢化・人口減少への転換」について、高齢者が力を発揮し、安心して暮らしやすい社会を実現するとともに、多世代交流により地域のつながりをつくることが重要といった意見が多く出された。また、子育て環境を整備し、若年層に来てもらうことが必要といった意見も多く出された。
- 「ポテンシャル、チャンス」については、先端産業の集積を生かして、企業と地域をつなぐことが重要という意見や、交通・物流の利便性を生かして、東京や横浜と連携しつつ独自性を発揮すべきという意見、2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、観光等の取組ができないか、という意見などが多く出された。

○ コーディネーターまとめ

- 各グループに共通する 3 つのキーワードがあった。
- 1 つは交流・コミュニケーション。新旧住民の対話や北部と南部の交流、さらには企業と地域との連携の話があった。
- 2 つ目は世代。多世代交流という話が出た。高齢者の中にもさまざまな高齢者がいるので、中身をよく見ていくべきという提起があった。
- 3 つ目が PR・イメージ。海外にも通用する川崎らしさを確立し、行政からだけでなく、市民からも伝えていくことも大事と感じた。

コーディネーター
礒崎初仁中央大学教授

（以　上）

グループディスカッションにおける意見まとめの概要

- グループディスカッションでは、各グループで「今後の議論をするうえで大切にしたいポイント」について、それぞれまとめを行った。（詳細は別添資料を参照。）
- ここでは、各グループで出された意見を、コーディネーターによる 3 つの共通のキーワードに沿って分類し、それらに該当しない意見をさらに 3 つに分類して整理した。

①交流・コミュニケーション

コミュニティのつながりを → そのためのコミュニケーションの機会を!! 3G

- 市の取り組みについて、もっと情報発信やPRが必要
- 民（民間企業・市民活動）の取組も、お互いに知り合う必要がある。

ハイテク企業と地域のつながりをつくる（“シリコンリバー”） 2G

- 川崎にはシリコンバレーに匹敵するハイテク企業が集積しているが、企業には川崎にいるという意識がない。一方、地域の側、市民の側にも、企業に対する意識がない。双方の「地場意識」の涵養が重要。
- 子どもにおける地元のハイテク企業への理解が深まれば、子どもの学力向上につながることも期待できる。さらに郷土愛の醸成、ひいては定住促進につながり、税収増にもつながる。

②世代

場づくり・機会づくりによる多世代交流 1G

- 高齢者と子供の交流による子育て環境充実と高齢者の生きがいづくり
- 空き施設を活用した交流の場となる空間の確保

「市民」「川崎」をひとくくりにせず、状況に応じた取組を!! 3G

- インフラ整備も違いへの配慮が必要（南北の差、地勢や地理、人口構成の異なり）
- 高齢者には、「支援が必要な高齢者」と、「活躍の場」が必要な元気な高齢者が存在する。対象を細分化して施策を考える必要があるのでは？

子育てから、世代間交流で、高齢者と子どもをつなぐ 2G

- 「子育てと防災の拠点」などの「場づくり」
  → ソフト/ハードにわたる多機能化
- 福祉にもつながる。
- 高齢者と子どもをつなぐことには、財政的な効果もある。

③PR・イメージ、発信

イメージアップと川崎らしさのPR 1G

- かわさき及び ‘かわさき人’ のイメージアップ
- 川崎の特徴のPR

「立地」への着目 → 他都市と連携しながら川崎らしさを！ 3G

- 東京と横浜に挟まれている環境で、外から見ると「川崎らしさ」や「個性」が埋没しがち。
- 『川崎らしさ』を市民が誇れるように→「シンボル」となるものをつくる必要があるのでは？
- 『公害のまち川崎』に代わるキャッチフレーズをつくり、浸透させる機会にしたい

自然発生的なPRで、広がる・伝わる 2G

- 上記の「場づくり」のような、市民の中で自然に生まれたものをPRする。（無理なPRをしない）
- こうした市民主体のPRに対して、行政のPRをミックスして、相乗効果を発揮。

災害時の情報の伝達 1G

- 情報提供による自助、共助の促進

④資源（人材、地域資源等）の活用

市内の人材の活用 1G

- 子育て支援など、元気な高齢者を増やし、活用する
- 市内在住のプロ人材など地域の人材を有効活用する

河川敷を活用して、川崎の魅力を発信する 2G

- 河川敷を生かしてイベント等を開催する。行政は、河川敷を整備し、場の提供を。
- 仮設テントなどを使えばお金をかけずにできる。工夫すれば、市民や企業からお金を出してもらうこともできる。
- 東京オリンピックが始まれば、都内には落ち着ける場所はなくなる。人ごみに疲れた人にとって、川崎の緑や音楽は大きな魅力になる。それらを生かしたイベントを開催し、PRすべき。

オリンピック・パラリンピックの活用 1G

- オリンピック・パラリンピックのインパクトを活用した観光振興

資源（芸術・スポーツ・自然）のネットワーク化による活用 1G

- プロチーム（フロンターレ）や施設などスポーツ資源の活用
- ミューザの一層の活用
- 自然環境の保全と活用
- 上記のような点在する資源のネットワーク化による有効活用

遊休資源がある!! 3G

- 民間企業が有している遊休の土地建物の活用を促す必要があるのでは？
- 市の資産も十分活用されていない。（文化施設など）
- 遊休資源には、土地、建物だけではなく、人材も含まれているのでは？大学や企業人材の活用が必要。

⑤生活環境

すべての世代が安心できる医療 1G

- 老後の不安がなく、一人暮らしでも安心できる環境の確保

交通利便性の強化と地域間連携等への活用 1G

- 広域交通利便性の強化、活用と地域連携の促進
- 道路網整備や公共交通機関の活用など地域交通の充実

子どもが安心して遊べる環境と充実した教育環境の提供 1G

- 学校以外に子供が外で安心して遊べる環境の整備保
- 充実した教育環境

⑥実行性

どこまでだったらできる? → 財政状況は？本当にできるの？ 3G

- 議論をする際に、あれもこれもではなく、現実性のある提案にしたい。そのためには財政状況にも配慮が必要なのでは？

具体的なアクションを考えたい!! 3G

川崎市総合計画市民検討会議委員名簿
（平成26年10月から平成28年3月まで）

No.	氏名（敬称略）	備　考
1	荻原　進	川崎区在住（市民委員）
2	小山　了	川崎区在住（市民委員）
3	外山　瑠美	川崎区在住（市民委員）
4	青柳　昇二	幸区在住（市民委員）
5	加藤　英雄	幸区在住（市民委員）
6	新富　征人	幸区在住（市民委員）
7	川島　弘一	中原区在住（市民委員）
8	馬場　直子	中原区在住（市民委員）
9	松本　玲子	中原区在住（市民委員）
10	岡田　義一	高津区在住（市民委員）
11	飯田　眞	高津区在住（市民委員）
12	片山　利昭	高津区在住（市民委員）
13	長谷川　秀子	高津区在住（市民委員）
14	加藤　浩照	宮前区在住（市民委員）
15	辻　麻里子	宮前区在住（市民委員）
16	長野　敏幸	宮前区在住（市民委員）
17	小池　朋子	多摩区在住（市民委員）
18	山下　博子	多摩区在住（市民委員）
19	後本　直子	多摩区在住（市民委員）
20	加藤　美於	麻生区在住（市民委員）
21	山下　千裕	麻生区在住（市民委員）
22	礒崎　初仁	中央大学法学部教授